

## 2013山スキーネット 日白山

2013.3.3(日)

時折小雪の舞う二居の集落の駐車場で、新座山の会の瀧見さん、菅野さんと、大宮労山の青島さんと合流し、昨日の大雪でさらに積雪量を増した白と黒のコントラストの景色を見ながら、林道を除雪最終地点まで板を担いで歩いた。

970mの地王堂川右岸から左岸に横断する地点は少し神経を使い、約5m程切れ落ちた雪壁を慎重に下った。左岸の1180m地点までは新雪の林の中で、午前中の気温が低くシールがよく効く心地良い登行となった。休憩を取り、これから始まる急登に気合を入れた。



スプリットボードのメンバーもカー一杯ラッセルで皆を先導し、順々にラッセルを交代しながら急登にキックターンで挑んだ。雪質は一定ではなく厳しい登りとなり、次第に新雪がクラストした雪に変わり、そして風の当たる場所では固く冰雪化した上にうっすらと新雪が乗っているだけの気の抜けないスロープとなり、CL宮田さんの判断でクトーをスキーに装着した。きつい登りではあったが、稜線まで上がると視界が広がり、登ってきた森の向こうには二居の集落を見下ろすことが出来た。

軽食を取り、稜線右側の深い谷へと誘う雪庇に近づきすぎないように注意しながら頂上を目指した。平標山を中心に深く切れ落ちた谷沢はとても厳しく、この稜線にある綺麗な樹氷とは雰囲気対照的であった。頂上直下でスキーをデポし、胸まである雪をかき分けながら登頂した。不安定で少し風のある頂上の滞在は短時間で、スキーをデポした地点に戻り、シールを剥がして滑走の準備をした。



急斜面のあるコルまでは、稜線の軽い新雪を行き、コル下の一本目は下地がアイスバーンでエッジを効かせながらの滑降となった。二本目はとてもすばらしく、ふかふかのパウダースノーを撒き散らしてのベストランとなった。続く急斜面の雪質も良く、皆、林の合間を颯爽と滑り降りた。刻々と雪質は変わり、地王堂川が近付くと重たくなってきたが、各自が描く思い思いのシュプールは今日の山行がとても素晴らしかった事を表していた。



林道を滑り降り、駐車場でスキネット閉会の挨拶をして新座山の会、大宮労山の仲間と別れ、すぐ前の温泉で汗を流してから一同帰路に着いた。

